ニャースの過去と素早い語学習得に必要な要素

ポケモンに出てくるロケット団所属のニャースの過去を皆様はご存知でしょうか？

名は無く、家なき子であったドラニャースがとある日、盗んだ魚を咥えて街を疾走していた所、メスのニャース、マドンニャちゃんに出会い、一目ぼれしました。マドンニャちゃんはアプローチしてくるニャースに言い放ちます「私の愛が欲しいなら、人間になれる？」と。

「人間になる」と決心したニャースは、人間になると言う事は「人間の言葉を喋れるようになる事だ」と考え、努力し、人の言葉を喋べれるようになったのです。

一流のスポーツ選手や学者がどのようにして一流になったのか？と言う研究の第一人者であるフロリダ大学教授アンダース・エリクソン氏はとあるインタビューにて、素早く語学習得をする３つの大切な要素を説明していました。

１．先生を付けて、現状の語学習得の状況を見てもらい、足りていない部分を補っていく

２．インプットだけではなくて、アウトプットを通して、スキルをさらに磨き、先生のフィードバックを元にアウトプットにさらに磨きをかける

そして、エリクソン氏は語学習得の例として、彼の友人が語学習得に至った経緯を話しました。

「私には語学習得に苦労していたアメリカ人の友人がいたが、英語の話せないメキシコ人の女性と恋に落ち、彼女と意思疎通をしたいがために、努力し、半年でスペイン語が話せるようになった」

エリクソン氏の友人がスペイン語を話せるようになった要因として、「モチベーション」が非常に大きな役割を果たしたのです。彼女と話したいと言うモチベーションがあったからこそ、辛い事もある語学習得に励む事が出来たのです。

その反面、使うかも分からない英語を無理矢理に学校で習わされている日本人の子供たちが英語習得に四苦八苦しているのは、やはりモチベーションの欠如が大きな要因なのかもしれませんね。

語学習得に限らず、何かのスキルを自分自身が身に付けたいのなら、もしくは子供に身に付けさせたいのなら、強い動機を作る事、作ってあげる事で、モチベーションは保たれ、スキル習得の近道になってくるでしょう。

ニャースのお話しに戻りまして、ニャースは人の言葉を喋れるようになり、マドンニャちゃんに告白したわけですが、「人間の言葉を喋るニャースなんて気持ち悪い」と言われて振られてしまいました。

その後、「人間を凌ぐ悪になって、腕ずくでもマドンニャちゃんを自分の物にしてみせる」と決心し、ロケット団に入ったのです。これ位、人を動かす、強い動機が欲しいものですね。